

## ◇2019年度実施の国内修学旅行の実態とまとめ（中学校）〈抜粋〉◇

公益財団法人日本修学旅行協会

この調査は2019（平成31、令和元）年度に実施された中学校の修学旅行に関するものである。全国の国立、公立、私立10,270校から2,982校を抽出してアンケート調査を依頼した。回答は963校（回答率32.0%、前回32.2%）からいただいた。

設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	70	9,371	781	10,222
抽出校数	70	2,161	781	3,012
回答校数	19	758	186	963
回答率	27.1%	35.1%	23.8%	32.0%

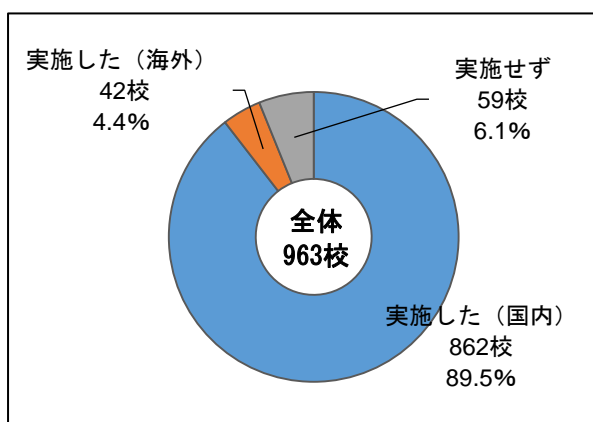
※回答率は、抽出校に対する回答校数の割合

調査項目は次の通りである。

- (1) 実施状況 (2) 不参加生徒の有無・理由 (3) 実施時期 (4) 実施学年 (5) 保健指導のための引率者 (6) 旅行日数 (7) 旅行費用 (8) 主な交通手段 (9) 旅行内容「旅行先、重点をおいた活動、宿泊地・利用宿泊施設、見学先等」 (10) 班別自主行動 (11) 体験活動 (12) 防災（避難）訓練の取り組み (13) アレルギー対策 (14) 事前・事後学習

ここではその一部を抜粋して紹介する。なお他の項目および詳細については、当協会発行の「教育旅行年報データブック2020」をご覧ください。

### 1 修学旅行の実施状況

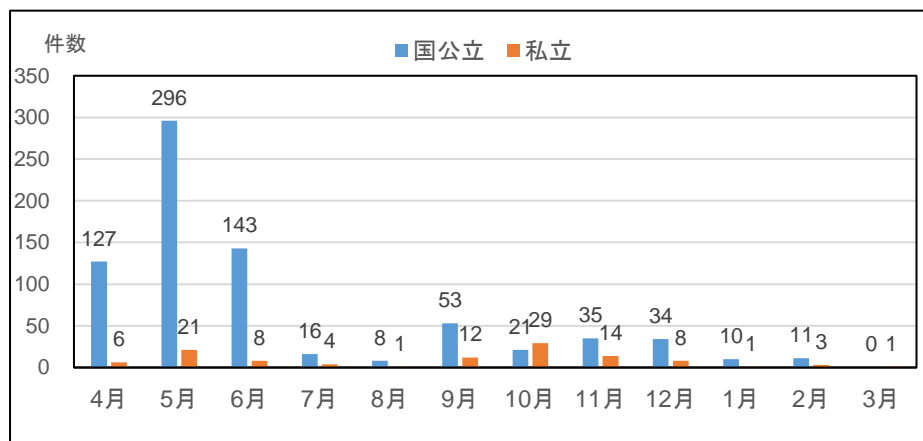


国内修学旅行の実施校の全体の割合は、前回調査94.1%から89.5%と4.6ポイント下がった。

また、海外修学旅行の実施校の割合が4.4%で前回調査の4.6%より減っている。

海外修学旅行も含めた修学旅行の実施率は93.9%で、前回98.7%より4.8ポイント下がった。実施率が下がった原因は、新型コロナウイルスが流行し初め、感染防止のために実施を見送る学校が出てきたためである。

### 2 国内修学旅行実施時期



国公立は、4・5・6月実施が75.0%（前回調査75.0%）で前回調査と同じであった。7・8月実施が3.1%（前回調査2.8%）で前回調査より0.3ポイント下がった。

私立は、9月から11月の秋の実施が全体の50.9%（前回調査38.1%）と多い。

### 3 都道府県別旅行先上位20

順位	旅行先	件数	構成比%
1(1)	京都	413	22.7
2(2)	奈良	361	19.8
3(3)	東京	217	11.9
4(4)	大阪	165	9.1
5(5)	千葉	134	7.4
6(6)	沖縄	73	4.0
7(7)	広島	67	3.7
8(9)	神奈川	60	3.3
9(8)	長崎	42	2.3
10(11)	福岡	41	2.3
11(12)	兵庫	36	2.0
12(12)	北海道	26	1.4
13(20)	山梨	20	1.1
14(15)	熊本	18	1.0
15(14)	岩手	16	0.9
16(13)	長野	15	0.8
17(18)	静岡	10	0.5
18(-)	青森	9	0.5
18(-)	栃木	9	0.5
18(17)	鹿児島	9	0.5

※( )順位は昨年の順位。総件数は 1,816 件

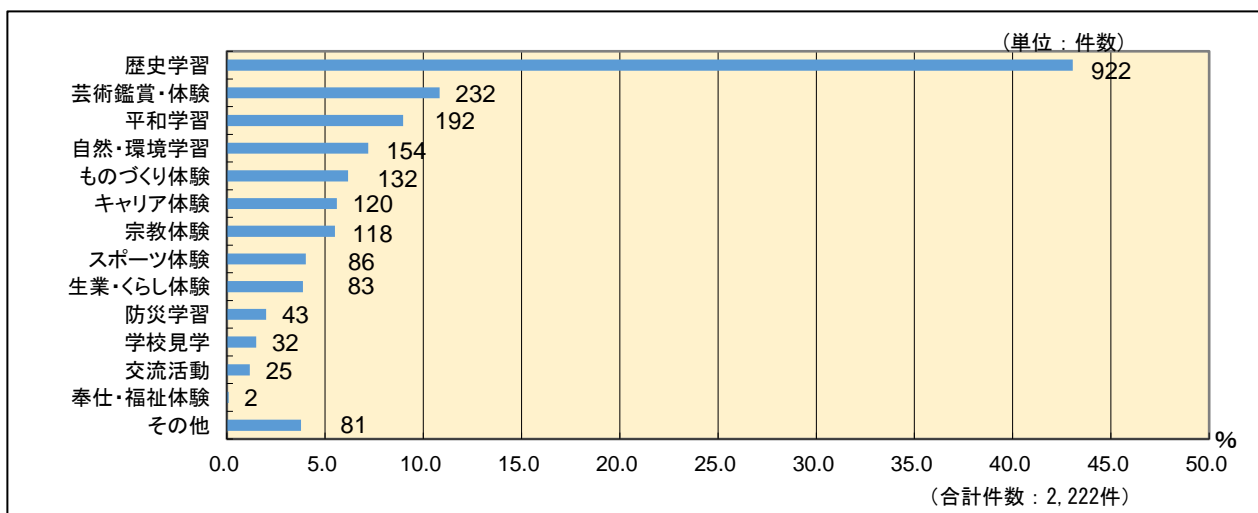
カウント方法は、滞在時間に関係なく、例えば滞在が半日であっても、2日であっても、初日と3日目であっても、行った旅行先を「1」としている。

今回調査で上位については大きな変動は見られない。7位までは前回調査と同じ順位になった。

歴史や伝統文化に触れることができる京都や奈良を旅行先に選ぶ傾向が長年続いている。

### 4 旅行内容

重点を置いた活動の分類別件数・比率



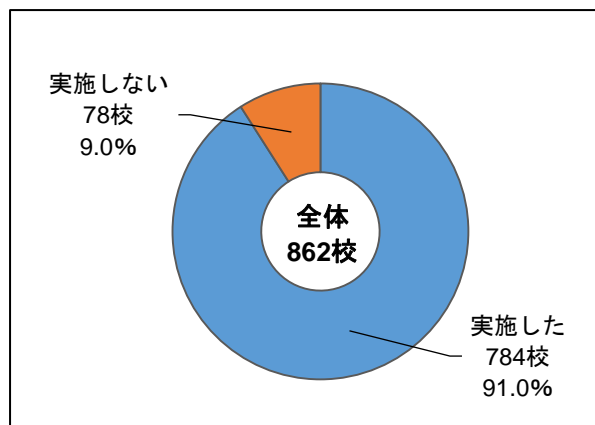
修学旅行で重点を置いた学習や体験を分類した分類別件数比率を見ると、「歴史学習」が922件(41.5%)で最も多く、次いで「芸術鑑賞・体験」が232件(10.4%)、「平和学習」が192件(8.6%)で、この3分類内容で全体の60.5%を占めている。その他様々な体験についても重点を置いて実施していることが分かる。

また、重点を置いた学習や体験の具体的な活動内容を調査した結果、1位「遺跡・史跡・文化財・寺社等の見学」2位「伝統的町並みや建造物群保存地区の見学」3位「平和学習」であり、この順位は例年ほぼ同じである。その他活動内容は多岐にわたっており、各学校が実態に応じて様々な重点を置いた活動を実施していることがうかがわれる。

さらに、活動内容の変化を2015年からの5年間で見ると、「林業」「スキー・スノーボード・スケート等」が順位を下げ、「宗教体験」「漁業」が順位を上げている。

このグラフで挙げた活動には、修学旅行の機会にしか経験できない貴重な活動が含まれており、今後も各学校のねらいに合わせて活動内容を深めていけたらと考える。

## 5 班別自主行動実施率

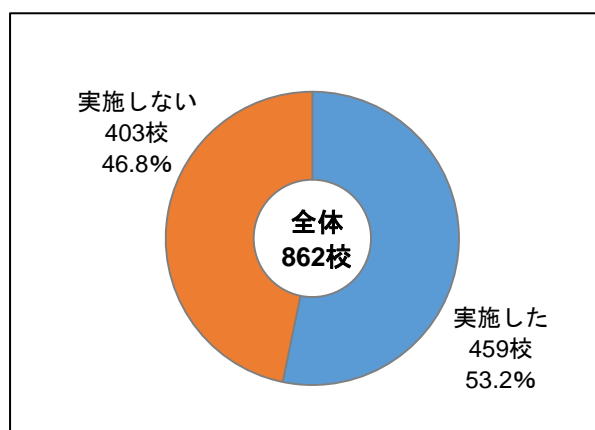


班別行動実施率は、今回も 80%を超え、全体で 91.0%の実施率であった。

参考までに、過去の実績をあげてみると、2015(平成 27)年度は 87.1%、2016(平成 28)年度 86.9%、2017(平成 29)年度が 87.4%、前回 2018(平成 29 年度)89.1%であった。

「主体的・対話的で深い学び」が求められる新学習指導要領のもと、今後も多くの学校が班別自主行動を取り入れていくと考えられる。

## 6 体験活動実施率



体験活動実施率は、全体で 53.2%と前回 (58.4%) から 5.2 ポイント下がった。3 年前から体験活動実施率が 60% を切っている。

体験活動の教育効果が高いことは言うまでもなく、今後、体験活動の実施率を上げていき、充実した修学旅行になることを望みたい。